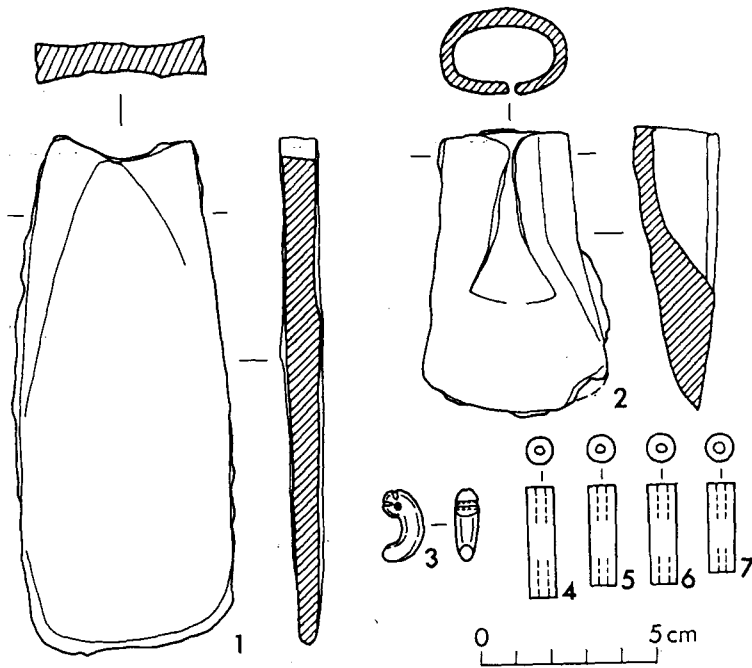
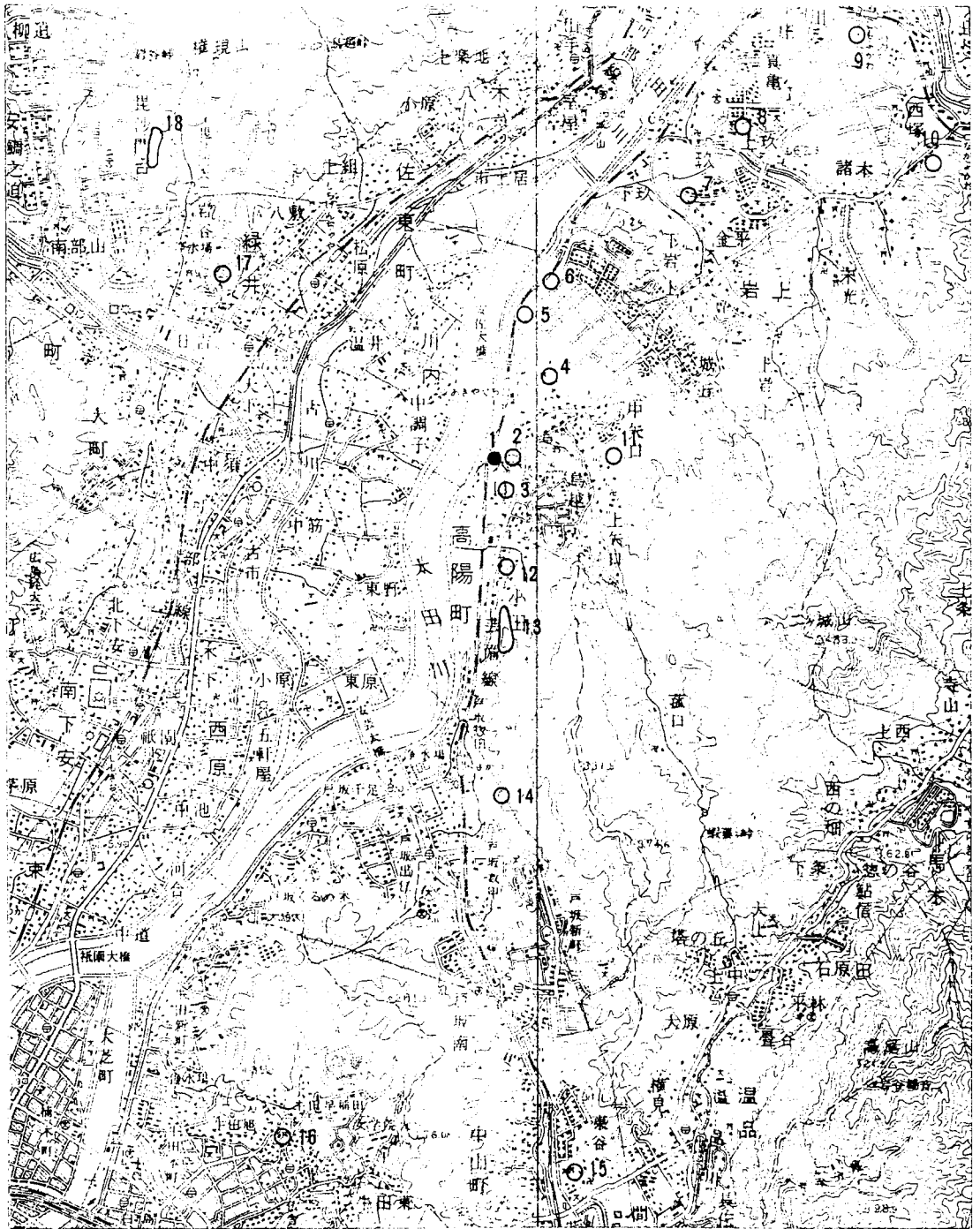


秋の古墳めぐり

平成13年10月21日



中小田第1号古墳出土鉄斧・玉類実測図



1. 弘住遺跡, 2. 弘住第1号古墳, 3. 上小田古墳, 4. 月ノ瀬古墳, 5. 西願寺山墳墓群,
6. 西願寺北遺跡, 7. 地藏堂山遺跡群, 8. 恵下第1号古墳, 9. 狐ヶ城遺跡, 10. 立石古墳,
11. 高陽台B地点遺跡, 12. 平野古墳, 13. 中小田古墳群, 14. 禅昌寺西遺跡, 15. 中山貝塚,
16. 早稲田神社東斜面遺跡, 17. 神宮山第1号古墳, 18. 毘沙門台遺跡群

秋の古墳めぐり行程表

- 8 : 15 JR 福山駅北口集合
- 8 : 30 JR 福山駅北口出発
- 8 : 50 山陽自動車道福山西インター
- 9 : 30 奥屋 P.A にてトイレ休憩
- 9 : 50 奥屋 P.A 出発
- 10 : 00 広島インターチェンジ着
- 10 : 15 西願寺墳墓群着・見学
- 10 : 45 西願寺墳墓群出発
- 11 : 00 恵下山遺跡群着、昼食
- 12 : 45 恵下山遺跡群出発
- 13 : 00 平野古墳（休憩）・中小田古墳群見学
- 16 : 00 中小田古墳群出発
- 16 : 20 広島インターチェンジ着
- 16 : 30 奥屋 P.A 着、トイレ休憩
- 16 : 45 奥屋 P.A 出発
- 17 : 30 福山西インターチェンジ着
- 18 : 00 JR 福山駅北口着・解散

位 置 と 環 境

今日見学する古墳群は広島県西北部の冠山山塊を源とする太田川が、可部町付近で流路を南に変え、まさに広島デルタに出ようとするところの東側に位置している。

太田川の両岸には、二ヶ城山や阿武山・武田山など標高400～500mの丘陵があり、それらの山塊からは、太田川の流路に向かって数多くの低丘陵が派生しており、遺跡はこれら低丘陵の突端部に位置するものが多い。太田川の東側には古くから銅鐸・銅剣・銅戈の出土で知られる東区福田の木の宗山遺跡や弥生後期の上深川遺跡などがあるが、近年は広島市のベッドタウンとしての大規模な住宅団地の造成が相次ぎ、弥生から古墳時代にかけての遺跡が多数あきらかにされており、このころから人々が生活し始めたことがうかがえる。しかし、当時はまだ住居単位がせいぜい3、4戸を一単位とする小さな集団を形成していたものが多いようである。地形図に太田川と旧流路の古川とがあることからみて、太田川は度々氾濫してその流路を変えており、このため耕作に適した沖積低地が広がらず、したがって生産力もあまり向上しなかったものと考えられる。

太田川下流域には、竪穴式石室や箱式石棺を内部主体とする前半期のものと見られる古墳がいくつかある。左岸では、中小田古墳群をはじめとし、大陸の青銅斧の形態に通ずる鑄造鉄斧などが出土した西願寺墳墓群や大型の土製勾玉出土の西願寺北遺跡、鉄製品の多い上小田古墳群などがあり、右岸では内行花文鏡片や玉類などが出土した神宮山古墳や環状乳画文帯神獸鏡出土の宇那木山古墳などがあげられる。いずれも標高90～130mの丘陵上に位置しており、互いに指呼の間に眺めることが出来るが、墳丘規模の大きなものはない。副葬品に鏡や鉄製品が多いことからみて、広島湾を望む内海交通の要衝をおさえるものとしての意義を有していたのであろう。しかし、横穴式石室を内部主体とする後半期の古墳では今のところ目立ったものがなく未解決の問題も多い地域である。

西願寺山墳墓群

この墳墓群は太田川に沿って南から北に延びる丘陵尾根上に営まれた弥生時代から古墳時代前半期にかけての遺跡である。住宅団地造成に先立って1972（昭和47）年から1973年にかけて発掘調査され、A～Eの5ヶ所で遺跡が発見された。これらのうちC、D地点遺跡が県史跡として保存され、他は消滅した。

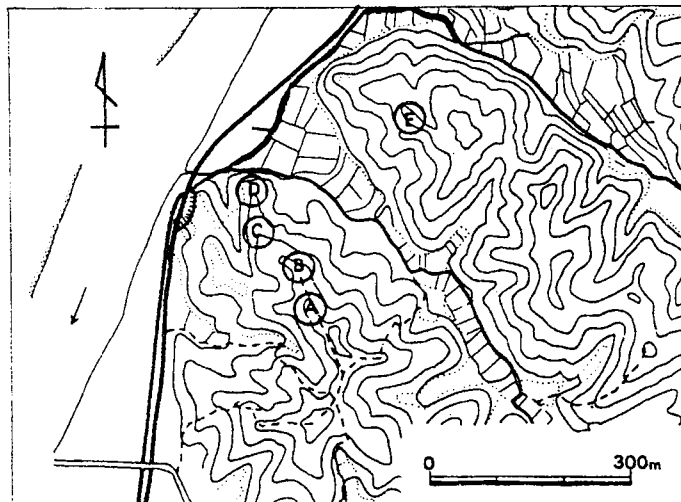
C 地点

丘陵尾根の高い方に尾根を直行する溝を掘って墓地を区画し、その内部に土こう墓14、竪穴式石室4が発見された。各墳墓は近接したり、重複しており、断続的に営まれたことがうかがえる。

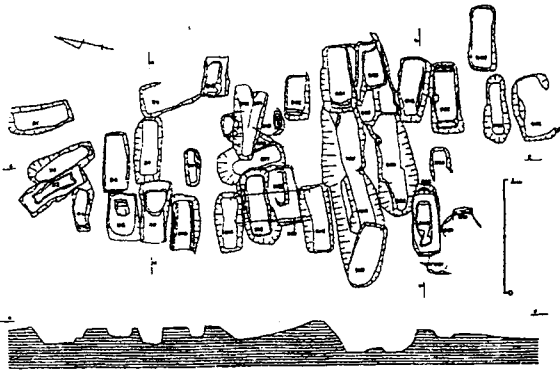
D 地点

竪穴式石室2、箱式石棺1が発見され、その周囲には円礫が並べられていた。これらの墳墓の上面にはさらに小礫を積み上げて盛土としていたが、若干の高まりがあったものの大きな墳丘は持っていなかった。出土遺物は1号石室から鑿、鉄斧（朝鮮はんとくからの渡来品か）、2号石室からは鉄剣、刀子、斧、鑿、鎌等が出土している。

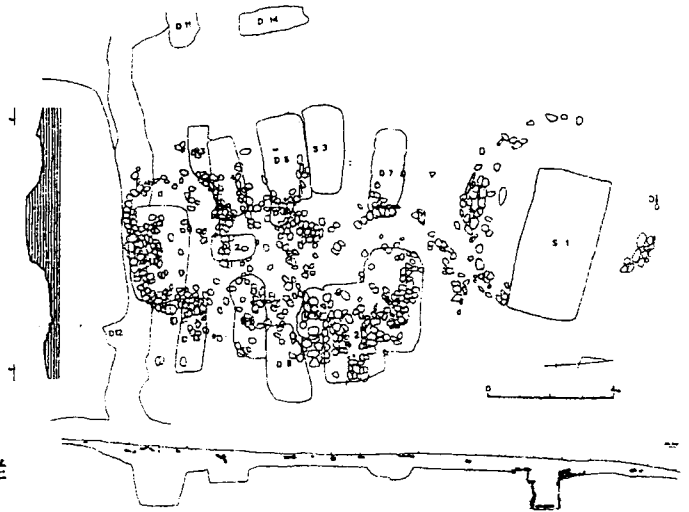
一定の面積を少数の竪穴式石室を中心とする墳墓が占有しており、C地点よりは後出的であるが、高い墳丘を持たないことから古墳出現前の弥生的要素が強いといえ、弥生時代後期頃と考えられる。



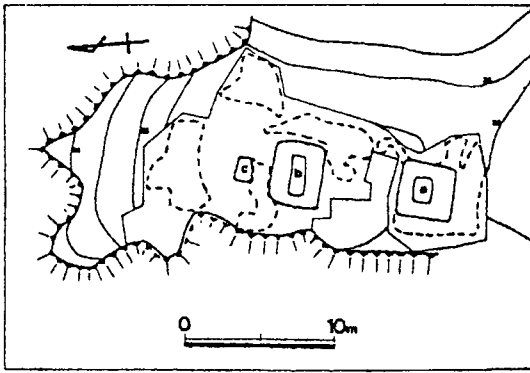
西願寺墳墓群地点配置図



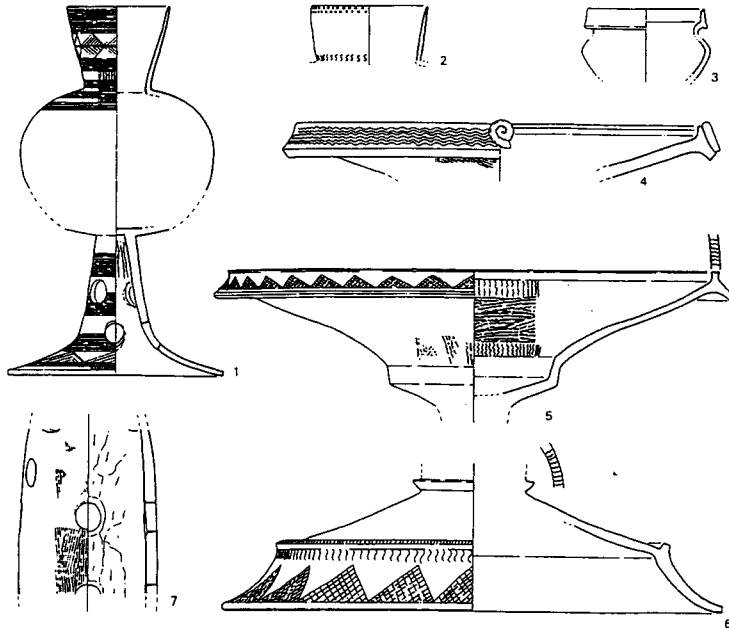
西願寺墳墓群·A地区土壙墓群



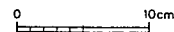
西願寺墳墓群·C地区墳墓群

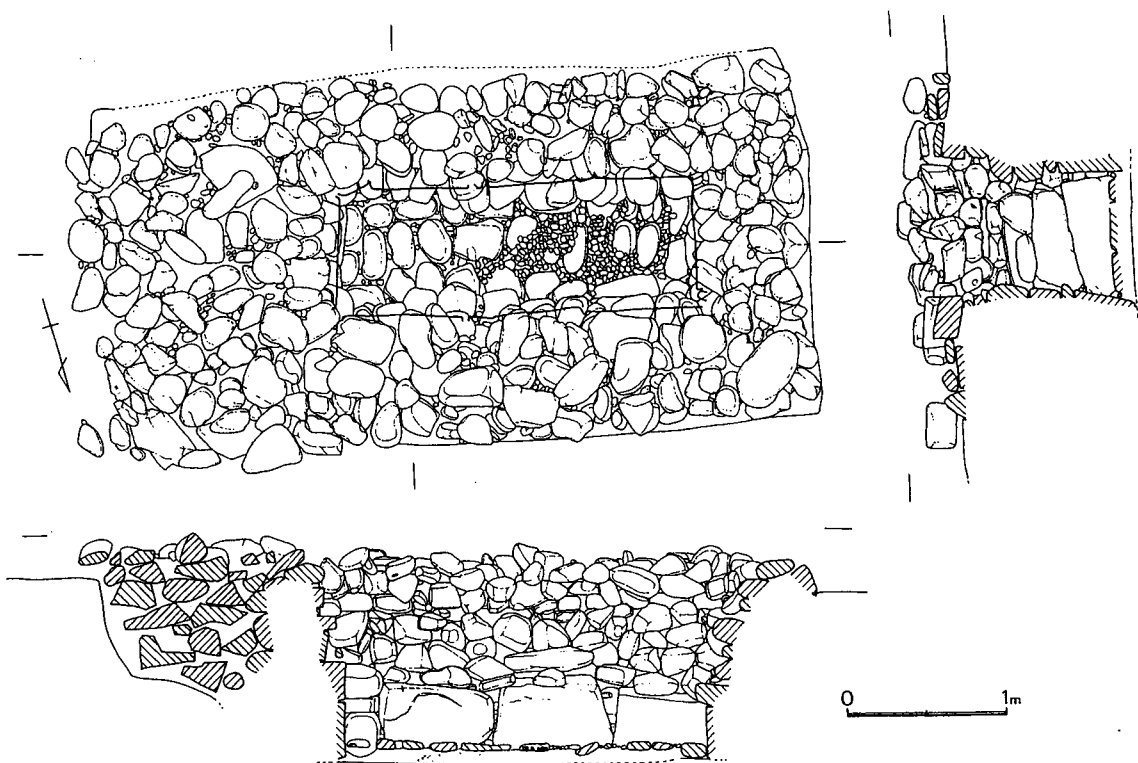


西願寺墳墓群·D地区墳墓群

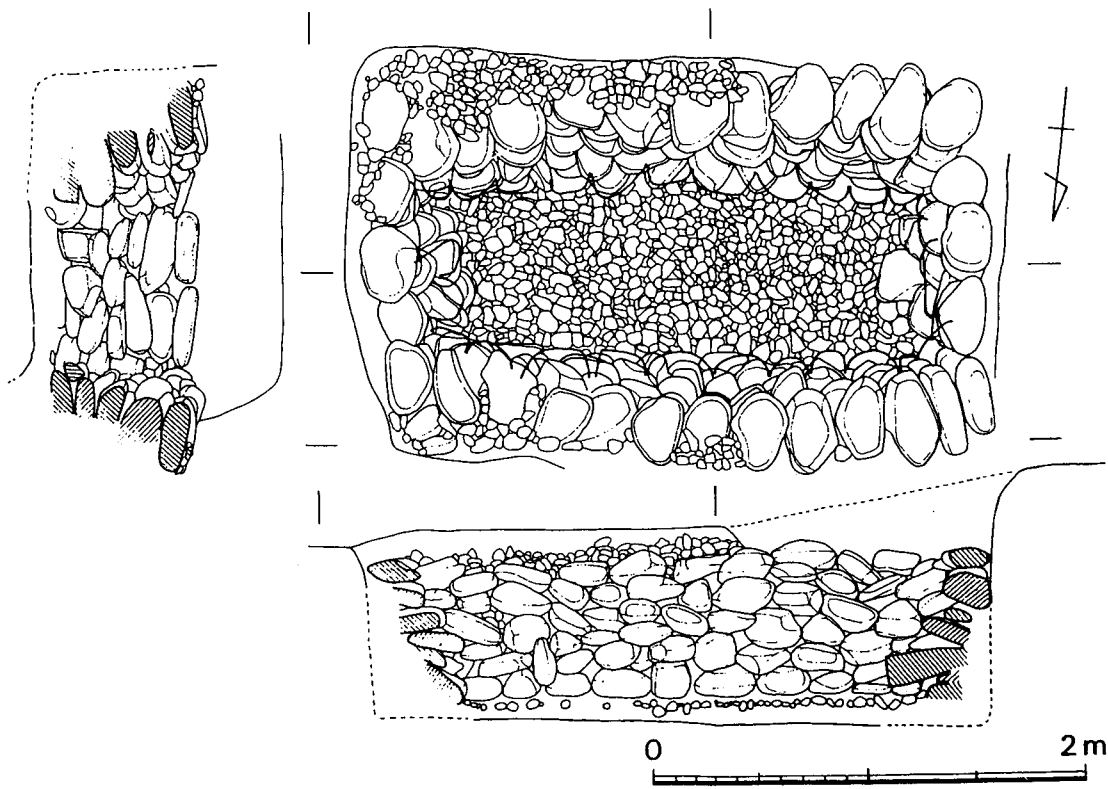


西願寺北遺跡出土土器実測図(1:4)

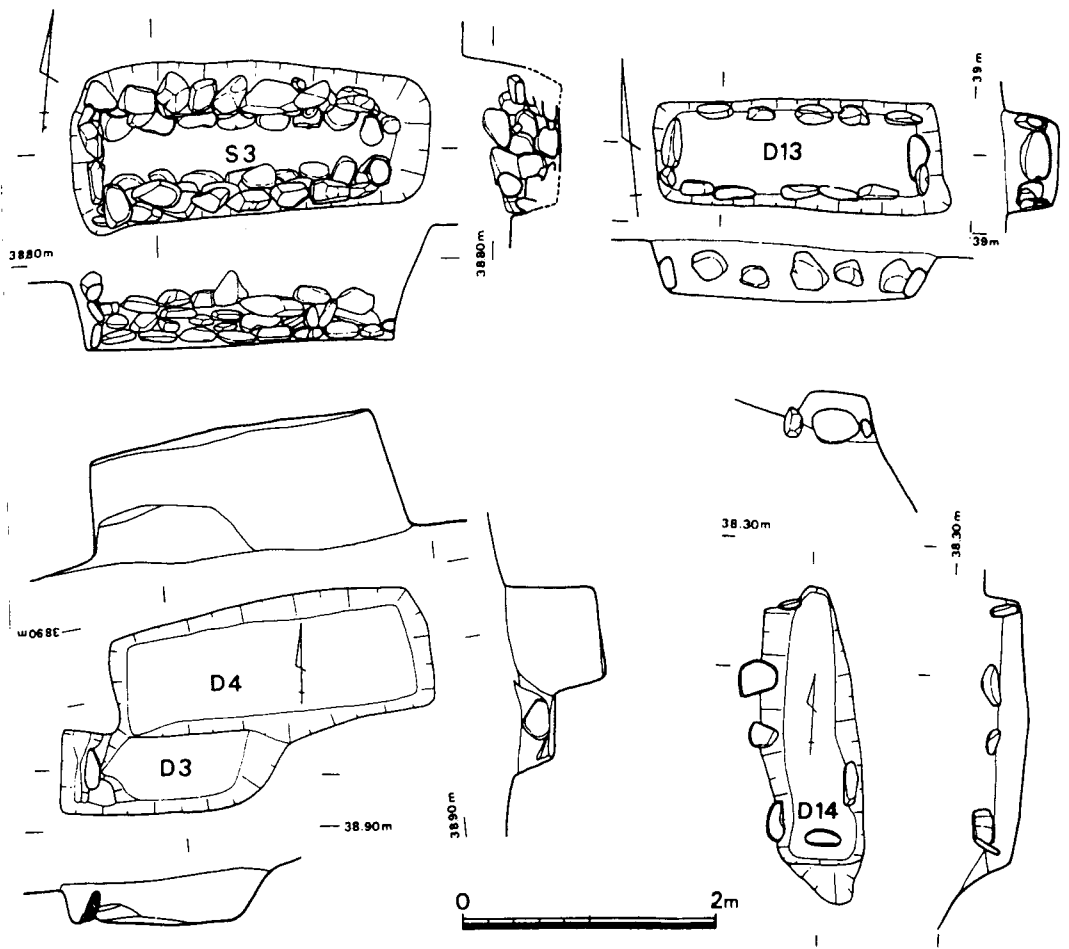




C地点第1号竖穴式石室实测图



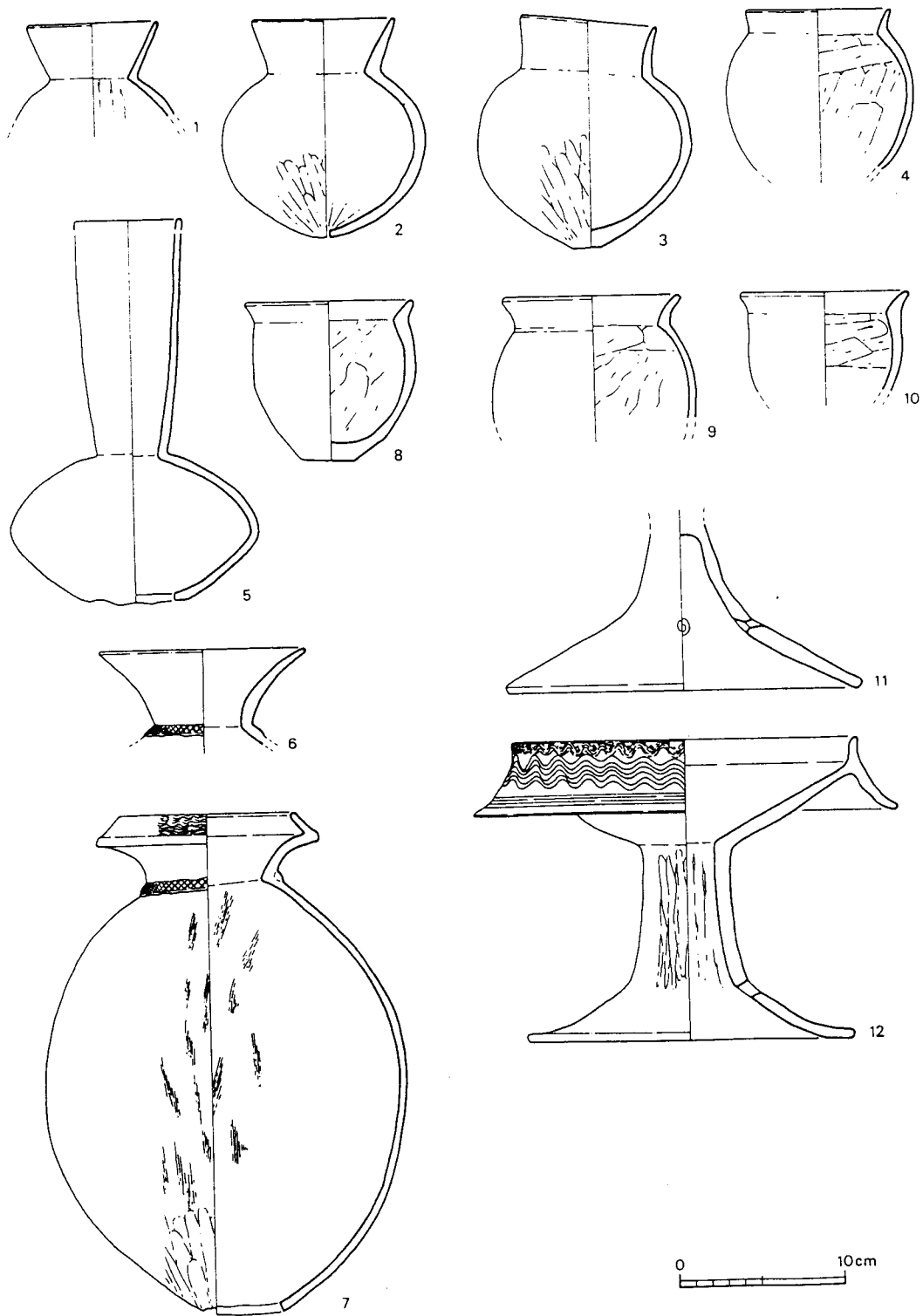
C地点第2号竖穴式石室实测图



C地点土壙実測図

	掘り込み上面		床面		床面高	長軸方向	丘陵尾根に対して	備考
	長さ	巾	長さ	巾				
1	306	190	257	129	114	N-87°-W	直交	東側中央より朱検出。 溝状遺構に切られる。
2	143	78	123	57	58	N-4°-E	平行	
3	180	63	137	55	60	N-89°-W	直交	西小口部に円礫・堀り方有り。
4	210	115	127	75	105	N-99°-W	〃	D3を切る。
5	278	144	243	116	89	N-97°-W	〃	
6	90以上	68以上	62以上	37以上	21	N-78°-W	〃	D5に切られる。
7	278	106	240	82	111	N-79°-W	〃	
8	259	109	214	84	94	N-89°-W	〃	
9	242	132	195	68	75	N-97°-W	〃	
10	158	82	120	60	56	N-73°-W	〃	S2に切られる
11	110	97	94	60	93	N-88°-W	〃	
12	66以上	90以上	49以上	82以上	39	N-5°-W	平行	
13	230	85	200	60	45	N-82°-W	直交	小口部及び側壁部に円礫を配す。
14	250	80	205	52	25	N-4°-W	平行	〃

C地点土壙墓群計測表 (S. 石室, D. 土壙)

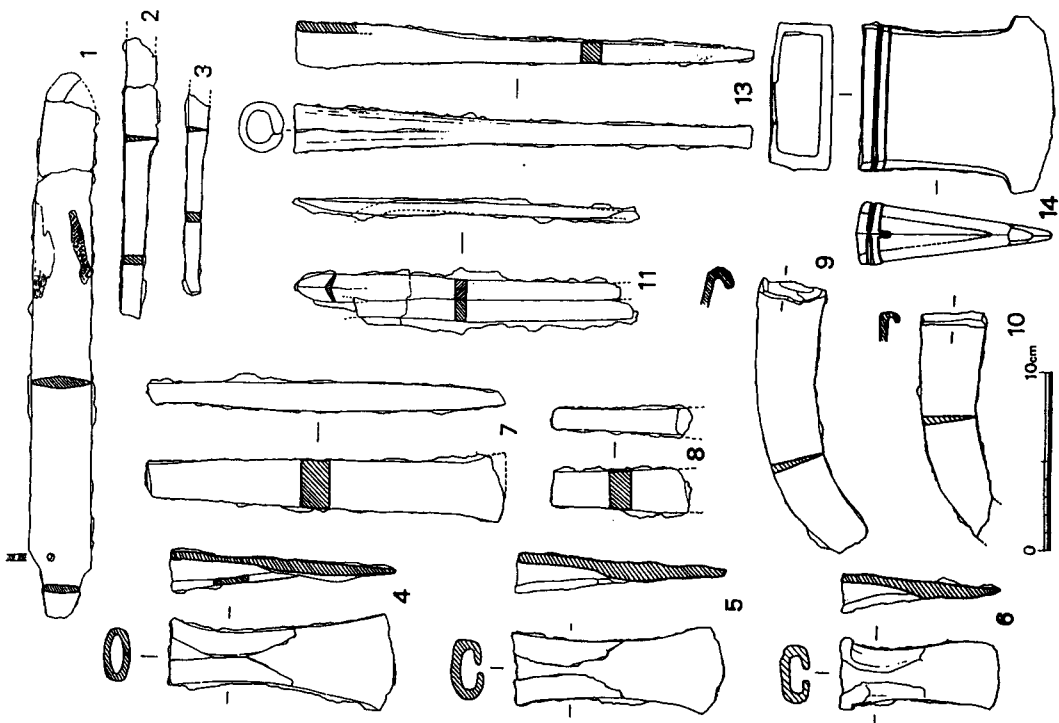


西願寺遺跡群C地点出土土器実測図（6・7は1：8、他は1：4） 一部改変

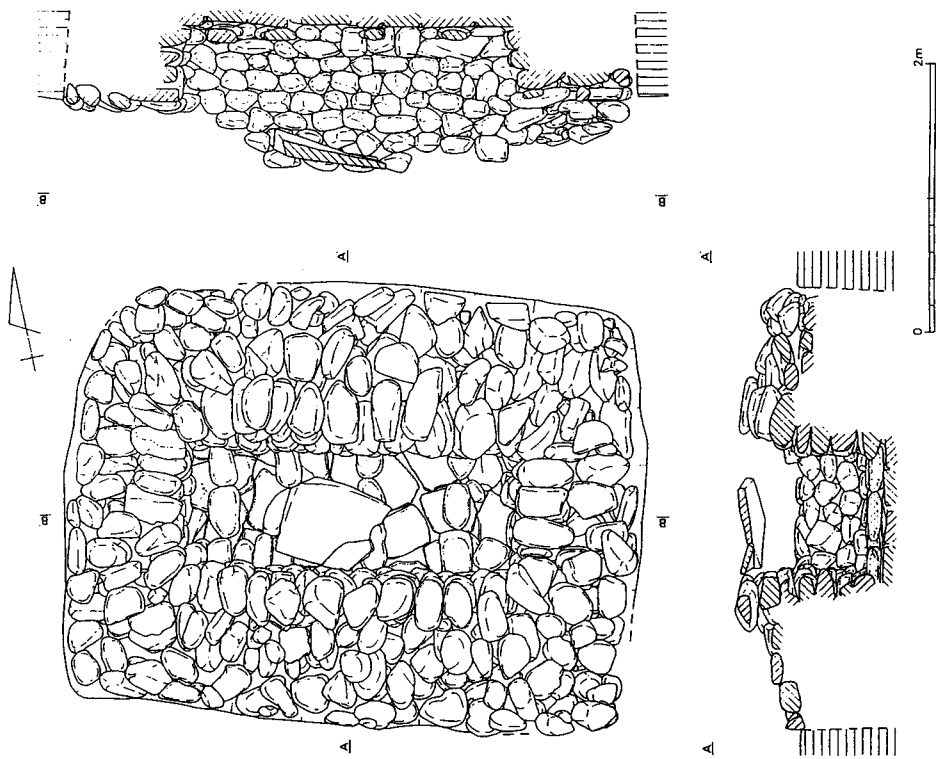
旧高陽町域の竪穴式石室比較表 1

	西願寺北遺跡	西願寺山墳墓群C地点		
	石室	第1号石室	第2号石室	第4号石室
石材	割り石+河原石	割り石+河原石	河原石	河原石
床面	石室内の底面にのみ割り石敷	石室内の底面にのみ河原石敷	石室内の底面にのみ小円礫敷	墓壇底面全面に河原石敷
床上施設	両小口際に石材が配置	小円礫散布	小口壁の基底部が張り出す	不明
壁体	小口壁・側壁別	石棺状の基底石上に河原石積み	らせん状一体	一体?
蓋	不明	木蓋?	木蓋	不明
標識施設	不明	円礫堆?+河原石列石	河原石列石	河原石列石
その他	単独の墳丘		第4号石室を切っている	第2号石室に先行する
各石室の墓壇規模 (cm)				
長さ	400	440(370)	290	295
幅	300	240	190	185
深さ	85	140 ⁽¹⁾	130	170
長幅比	0.75	0.54(0.64)	0.65	0.63
長深比	0.21	0.32(0.38)	0.44	0.58
幅深比	0.28	0.58	0.68	0.92
各石室内側の規模 (cm)				
長さ	215	224	220	200
幅	65	80	70	70
深さ	55	115(80)	70	55
長幅比	0.30	0.35	0.31	0.35
長深比	0.26	0.35	0.31	0.28
幅深比	0.85	1.00	1.00	0.79

注1 確認された墓壇レベルが、石室の上端よりも低いので、石室上端を墓壇上端と仮定した。



(10)



西願寺遺跡群D地点2号壘穴式石室実測図(1:40) 一部改変

D地点出土鉄器実測図

旧高陽町域の竪穴式石室比較表 2

	西願寺山墳墓群D地点		西願寺山墳墓群	弘住遺跡
	第1号石室	第2号石室	E地点石室 ⁽²⁾	第3号古墳石室
石材	河原石	河原石	河原石+割り石	河原石+割り石
床面	壁体構築前に底面全面に敷設	壁体構築前に底面全面に敷設	壁体構築前に底面全面に敷設	石室内の底面にのみ小円礫敷
床上施設	棺台石	棺台石	小円礫層	側壁際に石材が配置
壁体	らせん状一体	らせん状一体	一体	一体
蓋	木蓋	木蓋	木蓋	木蓋
標識施設	円礫堆	円礫堆+割り石	河原石列石	無し
その他	鉄器2点副葬	鉄器11点副葬	墓壇は二重土壇	双方中円形の墳丘。鉄器副葬
各石室の墓壇規模 (cm)				
長さ	350	430	350(320)	435
幅	350	330	280(160)	300
深さ	120 ⁽¹⁾	不明	150(110)	140
長幅比	1.00	0.76	0.80(0.50)	0.69
長深比	2.90.39	—	0.42(0.34)	0.32
幅深比	0.59	—	0.53(0.34)	0.47
各石室内側の規模 (cm)				
長さ	120	230	250	260
幅	60	85	80	120
深さ	72	100 ⁽³⁾	90	120
長幅比	0.50	0.37	0.32	0.46
長深比	0.60	0.43	0.36	0.46
幅深比	1.20	1.18	1.13	1.00

注1 報告書では墓壇の形状が図示されていないので石室の規模から推定した。

注2 墓壇が二重土壇のため、外側掘方の規模を先に、石室の築かれている内側掘方の規模を括弧内に記した。

注3 石室上方が攪乱を受けているため、現状値である。

恵下山・山手遺跡群（県史跡・広島市安佐北区）

広島市のベッドタウンとして開発された高陽ニュータウンの一角に復元住居を含めて5軒の住居跡が保存されている。

この遺跡群は1972～1974（昭和47～49）年に住宅団地開発にともない、広島県教育委員会により発掘調査が行われ、恵下山遺跡では竪穴住居跡5軒と土塋などが、山手遺跡では竪穴住居跡4軒と古墳2基が見つかった。

このことによって、太田川下流域周辺は、特に弥生時代以降、多くの人たちの住まいや墓として利用されてきたことが明らかになった。

中小田古墳群

古墳群は太田川に沿って南から北に突出した標高60～130mの丘陵尾根上に位置している。1961（昭和36）年に三角縁神獸鏡や甲冑類などが発見され、古墳群の存在が明らかになったが、1979（昭和54）年の保存のための測量調査により10基の古墳群から成ることが確認された。ほとんどが円墳であるが、第1号古墳は前方後円墳、第4号古墳は帆立貝式古墳の可能性がある。内部主体は未掘が多く不明な点も多いが竪穴式石室や箱式石棺がみられることから前半期の古墳群といえる。

卓越した多くの出土品から太田川下流域における首長墓と考えられる。

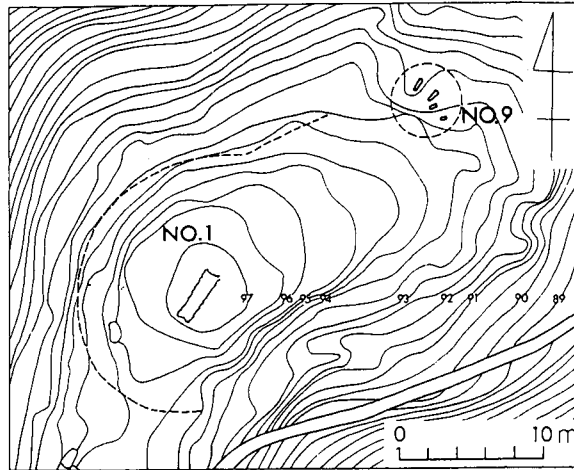
第1号古墳

全長約30m、後円部径約20m、高さ約4mの北東部に前方部を持つ前方後円墳の可能性がある。後円部の竪穴式石室から三角縁神獸鏡、獸帯鏡、勾玉、管玉、ソロバン玉、車輪石、鉄斧等が出土している。三角縁神獸鏡は四神四獸鏡で「吾作明意甚大工、上有王喬及赤松、師子天鹿其義龍、天下名好世無雙」と読める名が鑄込まれており、椿井大塚山古墳（京都）万年山古墳（大阪府）、石塚古墳（福岡県）から出土した鏡と同はん鏡といわれている。

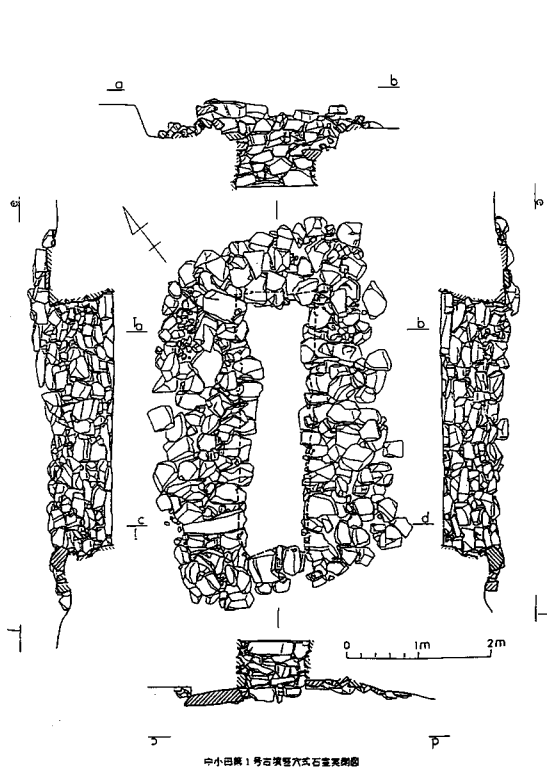
これらから広島県西部では最古に属する四世紀後半頃と思われる。

第2号古墳

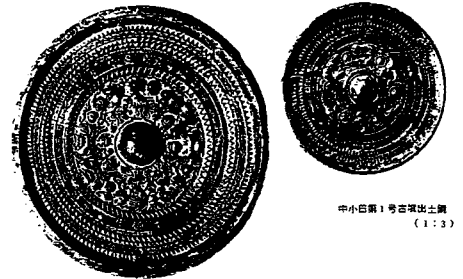
第1号古墳の南方約80mに所在し、竪穴式石室から素文鏡、短甲、衝角付冑、鉄剣、太刀、刀子、鎌、斧等が出土。五世紀後半頃と思われる。



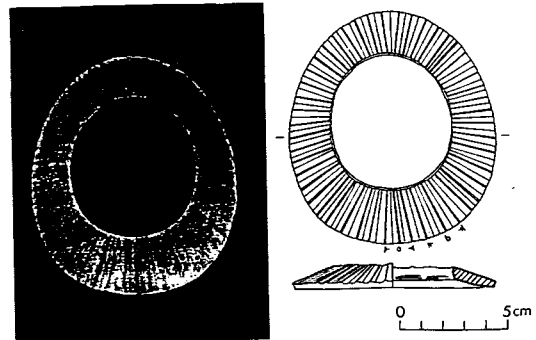
中小田第1号・第9号古墳地形図(数字は標高)



中小田第1号古墳型穴式石室平面図

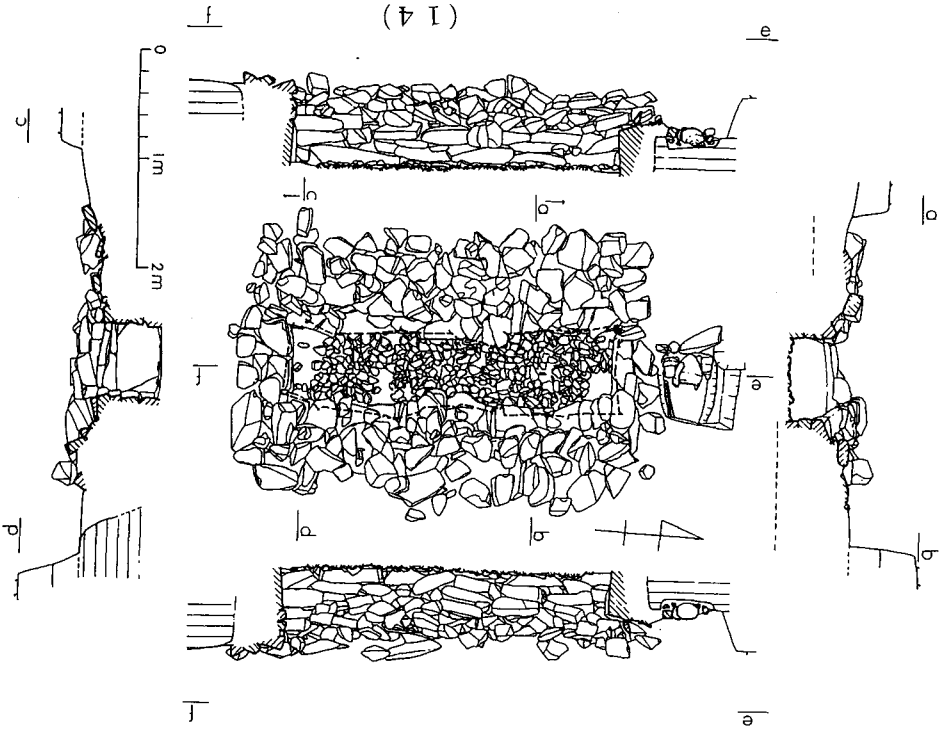


中小田第1号古墳出土鏡
(1:3)

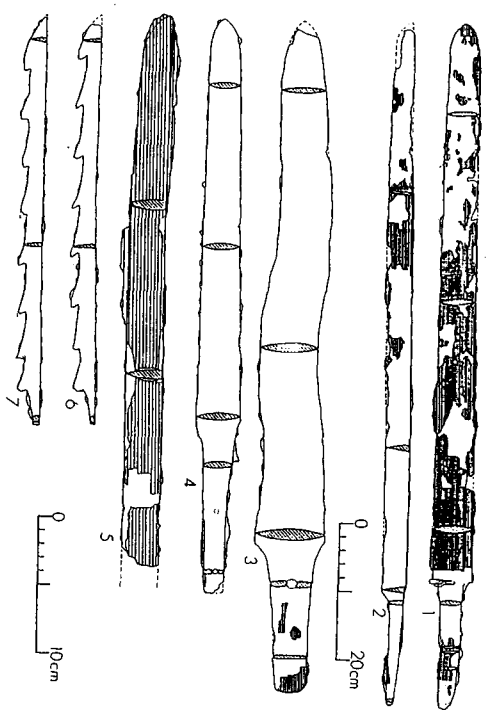


中小田第1号古墳出土銅輪石

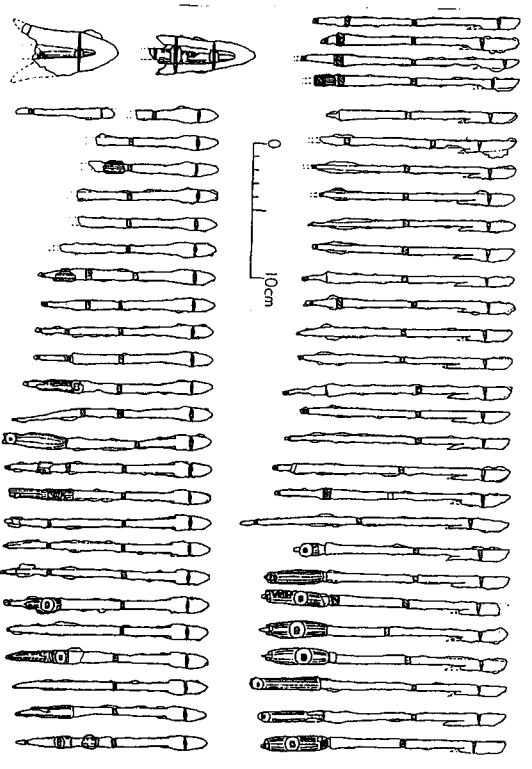
中小田第1号古墳出土銅輪石瓦割部
(a, bは文様の構成単位)



中小田第2号古墳型穴式石室家相图



中小田第2号古墳出土鉄器类图(2)



中小田第2号古墳出土鉄器类图(3)

安芸西部		安芸中部		安芸東部
広島湾	海田湾	西条	高屋	本郷
弘住3号	オケ道1号			
4世紀	宇原木山2号 中小田1号	丸山神社 白鳥神社 畑入塚	百ノ谷8号 原台遺跡4号	
5世紀	弘住1号 上小田 三王原 丸占 中小田2号 西尾 池の内2号	スガモ塚 三ツ塚	埴岡 兜山	
6世紀		高屋1号		
7世紀	収護音免		熊木平 御年代	

100m

広島県西部(安芸地方)の古墳の変遷

備後北部		備後南部		吉備
比婆・神石 三次 庄原		神辺	尾道・松永	
4世紀	大山山 原の口	瀬崎山 石屋山 藤治	石屋権現 丸山 風崎山	金屋山 造山 山 寺山
5世紀	本井大塚 三五大塚 旧寺 矢崎	山の神 二子塚	松本	
6世紀	久々原 風野 廣原			こつくり塚
7世紀				

100m

広島県東部、北部(備後地方)及び岡山県南部(吉備地方)の古墳の変遷(古藤清秀氏による)